

街道の駅からの小さな旅

てくてく

甲斐のくに

—第7駅—富士山



富士山信仰は、江戸時代「富士講」として流行し、
富士吉田は登拝する人々の拠点として、にぎわいをみせていました。
金鳥居の先、そこはかつての聖域。
今もなお富士講の歴史の面影が残る御師の町並みをてくてくと…。



06



大国屋

食行身祿が宿泊した御師宿坊、今でも民宿として営業している。御師の家の特徴的な造りや御師料理など当時の風情を満喫できる。

07



北口本宮 富士浅間神社

世界遺産構成資産。本殿、東宮本殿、西宮本殿は国の重要文化財。富士山の遥拝地であり、富士講では登山道の起点として栄えた。

08



富士山吉田口 登山門

北口本宮富士浅間神社境内、西宮本殿の脇にある富士山頂へ向かう吉田口登山道の起点。6月30日の富士山開山前夜祭では神事も行われる。



てくてく
歩きの
途中で：

旧外川家住宅で、外国人観光客の方に出会いました。富士講の行衣を身につけ当時の体験を楽しんだ後も、北口本宮富士浅間神社へと続く富士みちに点在する当時の面影を、丁寧にしながら歩いていました。その様子は、富士山の魅力は外国の方の心にも響くもののだと、感じさせてくれました。

01



金鳥居 (かなどりい)

登拝者を迎える門、俗界と神聖な富士山の「結界」として建てられた。一之鳥居とも称され、富士山という神の山の鳥居と考えられている。

02



金鳥居 インフォメーションセンター

富士山の信仰文化の歴史資料の閲覧や観光情報が入手できる観光案内所。世界遺産構成資産を巡るガイドブックも受け付けている。

03



無料休憩所 御師町お休み処

金鳥居から富士山へと続く旧町並みを再現したジオラマが楽しめる。また、富士山にちなんだお土産の販売や湯茶のサービスもある。

04



御師 旧外川家住宅

世界遺産構成資産。外川家は代々御師を務めてきた。主屋は1768(明和5)年に建造されたもので、国の重要文化財に指定されている。

05



身祿堂

富士山七合五勺にある鳥帽子岩で即身仏となった行者、食行身祿(じきぎょうみろく)像が祭られている小さなお堂。

てくてく
甲斐の国

富士は日本一の山。





「ふじ山」

文部省唱歌／作詞 巖谷小波

頭を雲の上に出し

四方の山を見下ろして

かみなりさまを下に聞く

ふじは日本一の山

青空高くそびえ立ち

体に雪のきものきて

かすみのすそを遠くひく

ふじは日本一の山

県道富士河口湖富士線に
「ふじ山」が聞こえてくる
メロディーポイントがあります。